

2 トランスバーラの耐機械踏圧性の実証

1 課題を取り上げた理由及び目的

島内では、ローズグラスに褐点病の発生が広がりつつあるため、その代替品種として、経年劣化しにくく、収量性・栄養面、牛の嗜好性も高いとされる「トランスバーラ」の栽培を推進している。そのような中で、大型機械による耐踏圧性を確認することは、今後の収穫機械化体系を検討する上で重要である。

2 実証の概要

(1) 試験内容：トランスバーラの大型機械収穫後の再生状況を草刈り機（ピーバー）利用区と比較し、耐機械踏圧性を実証する。

(2) 目的：収穫機械化体系及び長期利用性の参考に資する。

(3) 設置概要：

ア ほ場概要 R2年7月22日トランスバーラ植付ほ場での実証

イ 試験区概要

①試験区：大型機械収穫（ロールベール体系）
（ディスクモア，反転機，ロールベラーをほ場乗入れ）

②対照区：ピーバー（草刈機）収穫（生草体系）

ウ 調査内容 R3年7月7日収穫以降，8月と11月の収穫時に生育・収量を比較

3 調査結果

調査日等		調査項目	①試験区（大型機械収穫）	②対照区（ピーバー収穫）
調査日	8月26日	草丈 (cm)	70	53
		生草収量 (kg/10a)	2,520	1,960
		乾物率 (%)	25.0	23.0
		乾物収量 (kg/10a)	630	451
		考察	機械で刈高が高い影響はあるが、草丈、収量ともに高い。	ほぼ地際で切っているため草丈は低い、収穫ロスが少ない。
調査日	11月1日	草丈 (cm)	53	46
		生草収量 (kg/10a)	1,500	1,300
		乾物率 (%)	24.5	24.4
		乾物収量 (kg/10a)	368	317
		考察	前回と同様、草丈、収量ともにピーバー収穫区より高い。	ほぼ地際で切っているため草丈は低い、収穫ロスが少ない。

4 考察

8月及び11月の収穫時の草丈、収量を比較すると、いずれも試験区の大型機械収穫の方が高いことから、トランスバーラは耐機械踏圧性が高く、ロールベール体系での収穫は問題ないことがわかった。

5 残された課題

植付後数年経過し、継続的な大型機械の踏圧で土壌が硬化したほ場での収量性の確認。

6 実施者 福元 和宏